

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(ソブリン格付け: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/SovereignRating.html>)

マイライブラリー:0368

(注)本稿は 2016 年 1 月 11 日と 12 日の 2 回にわたりブログ「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2016.1.12
前田 高行

MENA(中東・北アフリカ)諸国と世界の主要国のソブリン格付け(2016年1月現在)

1. ソブリン格付けについて

ソブリン格付けとは国債を発行する発行体の信用リスク、つまり債務の返済が予定通りに行われないうリスクを、簡単な記号で投資家に情報提供するものである。「ソブリン格付け」は、英語の sovereign(主権)に由来する名称であり、国の信用力、すなわち中央政府(または中央銀行)が債務を履行する確実性を符号であらわしたものである。ソブリン格付けを付与するにあたっては、当該国の財政収支の状況、公的対外債務の状況、外貨準備水準といった経済・財政的要因だけでなく、政府の形態、国民の政治参加度、安全保障リスクなど政治・社会的要因を含めたきわめて幅広い要因が考慮される。

このようなリスク情報を提供しているのが格付け会社であり、全世界には多数の格付け会社があるが、その代表的なものは Standard & Poors(S&P)、Moody's 及び FitchRating の3社である。3社で世界のシェアの9割を占めており、特に S&P と Moody's は各々40%前後のシェアを有している。

格付け3社はそれぞれ独自の格付け記号を用いており、S&P では最上位の AAA から最下位の C まで9つのカテゴリーに分けている。これら9段階のうち上位4段階(AAA から BBB まで)は「投資適格」と呼ばれ、下位5段階(BB から C まで)は「投資不適格」又は「投機的」と呼ばれている。なお AA から CCC までの各カテゴリーには相対的な強さを示すものとしてプラス+またはマイナス-の記号が加えられている。カテゴリーごとに詳細な定義が定められているが、S&P の定義では最上位の AAA は「債務を履行する能力が極めて高い」とされ、一方最も低い C は「債務者は現時点で脆弱であり、その債務の履行は良好な事業環境、財務状況、及び経済状況に依存している」である。

* S&P の格付け定義については下記参照:

<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/1-G-3-02.pdf>

本レポートは 3 社の中で最もよく知られている S&P のソブリン格付けに基づき、日米欧の先進国の他、中国、ブラジル、ロシアなどの新興国並びに MENA 諸国および主要な発展途上国を取り上げた。レポートは毎年1月1日または7月1日時点の格付け状況について前回の格付けと比較してお

り、今回は2016年1月1日現在の格付けを取り上げて各国を横並びで比較し、同時に各国ごとに前回(2015年7月1日)の格付けと比較して半年の間のソブリン格付けの変化の状況を解説する。

*これまでのレポートは下記ホームページ参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/SovereignRating.html>

2. 1月1日現在の各国の格付け状況—中国、韓国、台湾よりも1ランク低い日本

(表:<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/1-G-3-01.pdf>参照)

(1)日米欧先進国の格付け

北米および西ヨーロッパ諸国は伝統的に高い格付けを得ており、ドイツ、英国、カナダ、デンマーク、スイス、ノルウェーなどの各国はこれまで同様最上級のAAAである。日本、米国、フランス、オランダ、ベルギー等もかつてはAAAであったが、日本は現在A+である。これは米国、フランスはもとより、日本、中国、韓国及び台湾の極東4カ国の中では中国、韓国、台湾よりも1ランク低い。中東諸国と比べるとイスラエル及びサウジアラビアと同格であり、格付けAAを保持するカタール、クウェイトあるいはアブダビに比べると2ランクも低い。

米国は上から二番目のAA+であり、フランスは上から三番目のAAで湾岸産油国のカタール、クウェイトあるいはアブダビと同じランクである。おなじEU圏の中でもかつて北欧諸国と肩を並べていたギリシャなど南欧の国々は債務危機により格付けが低い。現在スペインはBBB+、イタリアはBBB-であり、ポルトガルはBB+とされている。イタリアは投資適格カテゴリーでは最も低く、ポルトガルは投機的要素が強いとされるカテゴリーBB+である。そして財務状況が危機的状況にあるギリシャの格付けは下から五番目のCCC+である。

(2)新興国:BRICsおよびアジアの発展途上国の格付け

アジア・オセアニア地域ではオーストラリア、シンガポールおよび香港が英独など西欧諸国に並ぶAAAの格付けである。東アジアの中国、韓国、台湾はAA-である。上記(1)にも触れた通り日本はこれら3カ国よりも1ランク低いA+とされている。東南アジア諸国ではタイがBBB+、フィリピンはBBBの投資適格であるが、インドネシアは投資不適格のBB+、ベトナムはさらに低いBB-である。

BRICs諸国のうち中国は上記の通りAA-であるが、インド及び南アフリカは投資適格では最も低いBBB-とされ、ロシア及びブラジルは共にBB+の投資不適格の格付けである。

(3)MENA 諸国

イスラエルを含むMENA諸国19カ国のうちS&Pが格付け対象としているのはカタール、クウェイト、UAEのアブダビ、サウジアラビア、オマーン、バハレーンのGCC6カ国の他、イスラエル、モロッコ、トルコ、ヨルダン、エジプト、レバノン及びイラクの13カ国である。なおイラクは前回までソブリン格付けがなされていなかったが、今回格付けされている。

これら13カ国の中で最も高い格付けを受けているのはカタール、クウェイトおよびアブダビのAAであり、これに続くのがサウジアラビアおよびイスラエルのA+である。カタールなど3カ国はフランス

と同格で、サウジアラビア、イスラエルは日本と同じ格付けである。オマーンは BBB+とされ、モロッコおよびバハレーンがイタリア、インドと同じ投資適格としては最も低い BBB-である。

トルコは投資不適格または投機的とみなされるランクの BB+であり、これはロシア、インドネシアあるいはブラジルと同ランクである。またヨルダンも BB-であり、エジプト、イラク及びレバノンも CCC ランク一歩手前の格付け B-とされている。S&P の格付け定義では BB は「経済状況の悪化に対して不確実性、脆弱性を有しており、状況によっては債務を履行する能力が不十分となる可能性がある」とされており、また B は「現時点で債務を履行する能力を有しているが、経済状況が悪化した場合には債務を履行する能力や意思が損なわれやすい」とされている。

3. 今回(1月1日現在)と前回(昨年7月1日現在)の比較—改善されたヨーロッパ諸国

本稿で継続的に取り上げている国々について、半年前の昨年7月1日現在の格付けと今回の格付けを比較すると、いくつかの国は格付けが上昇または下落している。

格付けが上昇した国はオランダが前回の AA+から AAA に上がっている。おなじユーロ圏にあるスペインは BBB→BBB+ にアップしており、ポルトガルも BB から BB+ へと投資適格まであと一歩まで戻っている。またギリシャは放漫財政の結果、破たんの危機に瀕し、前回は S&P の定義で下から3番目の CCC- でデフォルト(債務不履行)一歩手前であったが、今回は CCC+ まで改善している。因みに CCC は S&P の定義では「債務者は現時点で脆弱であり、その債務の履行は、良好な事業環境、財務状況、および経済状況に依存している」というものである。

韓国も A+ から AA- に1ランクアップし、中国、台湾と同ランクになった。これに対して日本は逆に AA- から A+ に落ちており中国、韓国、台湾よりも低い格付けにとどまっている。先進国の中でも最悪水準にある国債の発行額とその GDP に占める比率に改善の兆しが見えないことが S&P の評価を低めたと考えられる。

日本以外で格付けが下がったのはサウジアラビア(AA- →A+、日本と同じ)のほか、オマーンが A- から BBB+ に落ちている。オマーンは前々回(昨年1月1日現在)は A であり、1年間で2ランクさがったことになる。またブラジルも投資適格の BBB- から投資不適格の BB+ に落ちている。サウジアラビアと共に石油価格の下落が同国の財政に深刻な影響を与えているためと見られる。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp